

ランドソルから
遠く離れた異国の地。

都市部から離れた郊外では
公権力の目から隠れ
違法な闇オークションが
開かれていた。

売買されるのは
表には出せぬ盗品や
攫われた少年少女……。

そしてその中に――。



それでは本日の
オークションもこれにて
最後の商品となりました!!

最後にお見せするのは
本日の目玉商品!!

ご覧ください
この美しき少女を!!

すばらしい!!

おお!!

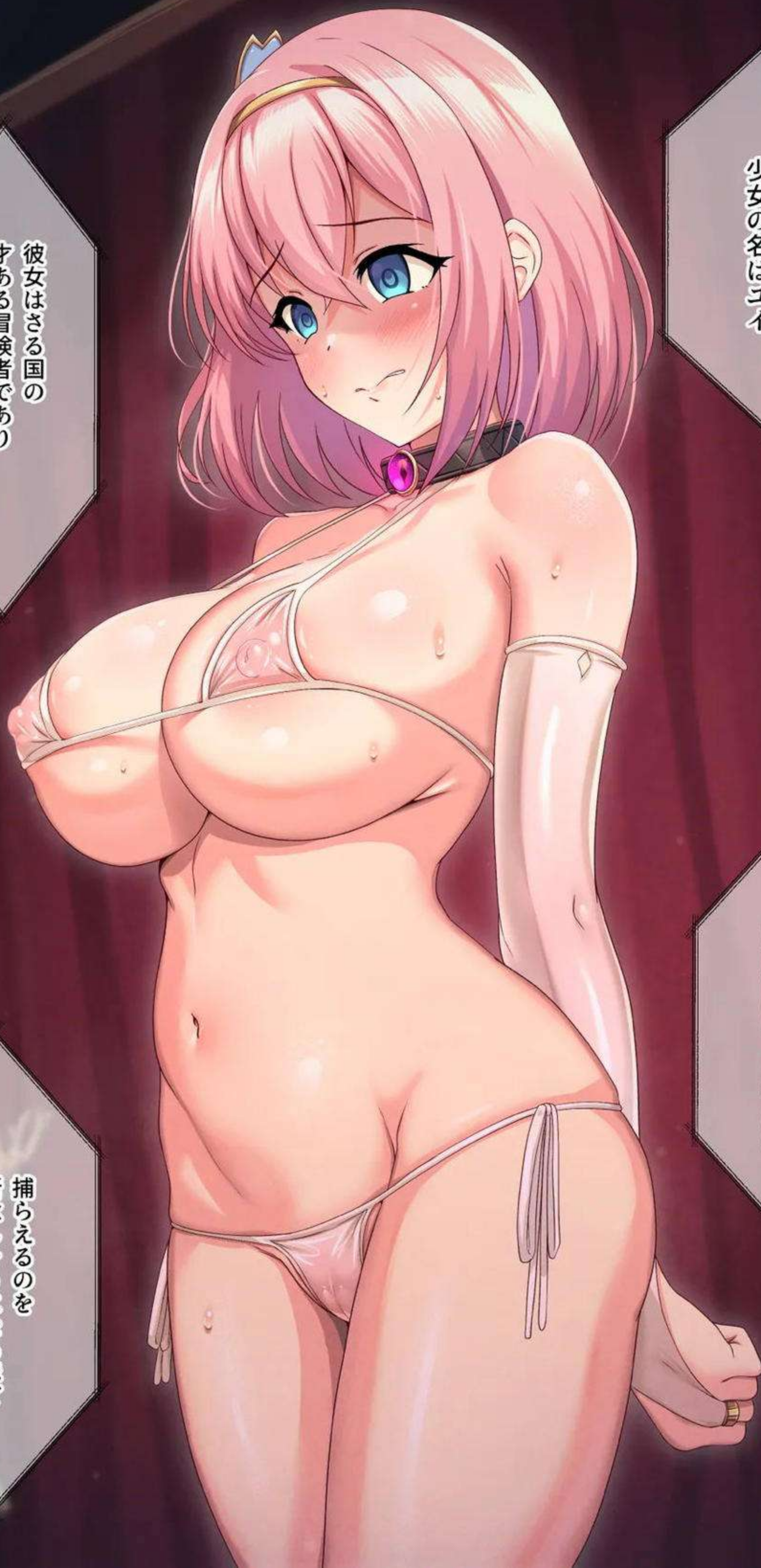


こちらの
少女の名はユイ

こちらに有利な地形で
罠に嵌めたうえでお

彼女はさる国の
才ある冒険者であり
我々が捕獲に向かった際も

捕らえるのを
断念しそうになるほど
強力な魔法師でした……



ですが彼女の仲間の
少年が捕まるや彼女は
少年を助けるために
自らの身を我々に
差し出したのです!!

なんたる献身!!
なんとという美しくも
清らかな心の持ち主
なのでしょう!!

そして少女と共に
捕らえられた少年もまた
彼女を助けるべく
今は鉱山で採掘に従事する
日々を送っております!!

美しい絆で繋がりがあった二人……
ですがもはや彼女の身体は
彼女の物でも、ましてや
少年のものでもないのです……



彼女の首を
ご覧ください

こちらの首輪は古代の遺跡より
発掘された魔道具であり
当オークションとっておきの
一品でございます

首輪に登録された
魔力の持ち主の命なくば
魔法の行使はおろか
呼吸、排泄さえも
ままならないのです

この首輪の力により
今の彼女は自分の意思では
指一つ自在に
動かすことはできません

生存の権利さえも
他者に依存する
家畜以下の存在――
まさしく哀れな
肉人形でございます!!



この魔道具のおかげで
彼女の身体は捕らえられた時の
状態のまま

我々は一切の手を
加えておりません

残念ながら現在のところ
一度付けた首輪を生きたまま
外す手段は判明しておらず
付け替えることは叶いませんが……

おい、アレは
なんとしても
手に入れる

あれなら
すぐにうちの
稼ぎ頭になる

くっ、さっきの娘を
飼っていなければ……!!!

これほどの美貌と肢体を
持ちながら正真正銘穢れなき
純潔の乙女でございます

落札された方には
こちらの魔道具をセットで
お譲りいたします!!



さあさあ前置きは
これくらいに
しておきましょう!!

落札できれば
この清廉なる少女の
身体と心を蹂躪する権利は
あなたのもの!!

抱いてよし!!
孕ませてよし!!
もちろん
稼がせてもよし!!

1000万から
スタートです!!

2000万!!

2600!!

4000万!!

たすけて……
騎士くん……







オークションで
異国の貴族に
落札されたユイ

連れ込まれた寝室で
「股を開け」と命じられる

抵抗する意思とは裏腹に
魔道具に支配された身体は
本人よりも主の意思を
優先し勝手にベッドに上る

そして男に向かって
見せつけるように
股を開き――。

ふむ
処女というのは
真のようだな

ちようと魔法の才のある
胎が欲しいと思っておったのだ

ははらっ♪

無論、お主には
ワシの子を
産んでもらう

そうさな
最低5つは産んで
もらおうか

そんな……
人を物みたいだ……!!

くはあ
……

物であろうが
お主はワシが
買ったのだぞ?

……

ではさっそく
使い心地を
試してみるとするか

ズン

ひゅ……

ズン

ん……♡

ズン

ズン



ま、待っててくださいっ!!

お願いします

あ、わたし
好きな人がいて...

はじめは
その人と...

ふむ.....
鉱山で働かされて
おるとかいう小僧のことが



確かに嫌がる者を
無理矢理というのは
ワシの好むところではないな

時に……
お主の想い人とやらが
働いておる鉱山な

あれはワシの
所有してる山でなあ……

え……

ホ……

!!

あ、ありがたう……



鉱夫というのは辛いぞお？

労働自体が厳しいのは
もちろんだが
環境がまた劣悪でな…

落石、生き埋め
砂塵による肺炎…
何人もが日々
命を落としておる

ああ、最近
殺しもあったと聞くな

あんな穴倉に
他に行く宛でもない
最底辺のクズどもが
詰め込まれているのでは
それも仕方あるまいか

そ、そんな……

それでも場所によっては
安全な働き場もあってのう…

お主がワシを
満足させられるのであれば
その小僧に便宜を
図ってやってもよろし
思っておったのだが……

……あ

サア

ちやう

ちやう

ゆら

ゆら



嫌というのであれば
仕方があるまい

ワシは別の女の
尻をしゃべらされてる

うん？

~~~~~

まだ待ってる

待っててください!!

アッ  
...





わたし、わたしは……  
あなたの相手をしたなら……  
騎士くんは……

ワシは約束は守る男でな

お主が望むのであれば  
その騎士くんとかいう  
小僧の待遇は考えて  
やらんでもない







oooooooooooooooooooooooooooo



わ、わたしが…  
わたしのはじめてを  
あなたにあげますから…  
どうか騎士くんは…っ

あげるだっ？

ずいぶんと  
偉そうなことだな

人にものを頼むのであれば  
相応の言い方というものが  
あるのではないか？

~~~~~  
~~~~~





どどどっかお願いですから!!

わたしのしよ、処女をっ

あなたに捧げさせてくださいっ!!







。。。。。。

。。。。。。  
そうも  
必死に懇願されては  
断れぬなあ

ワシが優しい主で  
よかったなあ。。。。

う。。。。

。。。。。。

あ。。。。  
い。。。。



ではお主の望み通り  
ワシがお主の最初の男に  
なつてやるとするか

入れるぞ  
さあ力を抜け

ううううう

あああああ

あうううう

ううううう  
ううううう

グッ







[illegible][illegible][illegible][illegible]

ほっ、これは...  
最低限使えればよいと  
思っておったが...

かほっ

はっ はっ

くぐずいざんと  
具合の良い牝穴を  
持っており

穴としての素養もあるとは  
良い買物をしたな

うたのたまわんこ

この程度で喚んでない  
だがまあ安心するがいい  
いずれこれなしでは  
いらねえようにしてやるら

ムッ ムッ

[illegible]



あーっ  
あーっ  
あーっ

はっはっ  
もすっ  
ゆっ

これでも加減しておる

力を抜けば楽になるぞ

さっ  
裂けちゃうっ

たっ  
ぽい

たっ  
ぽい

子をひり出す穴だぞ  
この程度で壊れたりせぬわ

そんな、ことばっ

あっ  
ひあっ  
あっ  
あっ





まったく  
いやらしく  
揺らして

大きく形の良い乳房だ

しかも張りもある  
孕めばさぞ質の良い  
母乳が出るであろうな

うわーうわー

あーあーあーあー

うわー

あー

あー

うわー

あー

あー

あー

あー

あー

あー









おはっ!!

ななか...  
また大きくなって...

ほうわかるか

感度も良いようだな

これは男が  
もうすぐ出す  
というサインだ

これからこれを合せて  
膣を締め付けるのだぞ  
覚えておくこと

ズン  
ズン

あえ...?  
だ、だすって...  
ひっ.....

そ、そんなっ...  
そんなことしたら  
あ、赤ちゃんが.....

それが目的だと  
言っておるうに

それともやはり  
小僧のことは  
諦めるか?

うあ.....  
ひっぐ.....

理解できたようだな  
ワシの優秀な種で  
孕めることを  
精々光栄に思うがら

うん

うん

さあしかと  
受け止めろ!!

いやっ!!  
いやあ.....!!

ズン  
ズン

ズン  
ズン

いや

あ

や

ああ

ズン  
ズン





あ.....っ  
あああああ.....っ!!!

♡いっ♡  
♡ち♡  
♡ん♡  
♡♡

♡いっ♡  
♡ち♡  
♡ん♡  
♡♡

いっ  
ち  
ん

♡いっ♡  
♡ち♡  
♡ん♡  
♡♡



（この…  
気持ち悪い感触…  
これ、男の人の…）

あ……

（その上でこんな…  
こんな人の赤ちゃん…  
できちゃうかもしれない…）

（でも……）

（なか…  
出されちゃった…）

なか…  
でてる…

（ラーストキスも  
はじめても……  
全部奪われちゃって……）

うあ……

（それでも  
騎士マンを  
助けられるなら……  
わたしは……）

びび  
びび

びび  
びび



ふむ  
この初々しさは  
生娘を味わう  
醍醐味だが……

せっかく手に入れたのだ  
ついでに魔道具とやらの  
使い心地も  
試しておくとするか

確かこうして魔力を  
注げば良いのであったな

え。なにを……

ズル……

グロ……

グロ……







あ、ああアアツ!!

あがつ!!



「なんだこれっ!!」

「身体っ、あつらっ!!」

「それに、頭のなか  
ぐちゃぐちゃに  
されてるみたいなの……」

「ふっ、  
精神系の魔法……!!」

「まさかこの首輪  
身体だけじゃなくて  
心まで……!!」

「だめ……  
抵抗できな……」

「あ、あああああっ!!」





くくく…  
なんだずいぶん  
熱っぽく潤んだ瞳で  
見つめてくるではないか

まるで恋する  
乙女のような

ちが…ちがいます  
わたしが好きなのは  
騎士クンで…  
騎士クンだけで…

(顔、熱い…♡  
恥ずかしくて  
この人の顔  
まともに見れない…♡)

お主の牝穴も  
ワシのモノが  
欲しいとくばくば  
吸い付いてきておるぞ

そんなに物欲しげに  
ねだられてはまた  
入れてやりたくなくて  
しまうではないか

あ、や…ちがっ…♡

ちがっ♡

ちがっ♡

ま、まっで…  
今さらなら、わたし…♡





ひあっ♡  
はっああああんっ!!♡♡♡♡

はっはっ

はっはっ  
はっはっはっはっ

入れただけで  
イキおった!!

はっはっ

はっはっ

はっはっ



ヒ  
ク  
ヒ

ヒル



ははっ  
よほどワシのモノが  
愛おしいようだな

あん♡  
あ♡あ♡あ♡

Hi to

ゲ  
ボ  
△





(上も下もこの人と  
繋がっている……♡)

(この人の……が  
わたしの奥をたたく度に  
すごく気持ちよくなつて……♡  
幸せな気持ち溢れてきて……♡)

(こんなに気持ちよく  
してくれるなら……  
せめてわたしも  
気持ちよくして  
あげないと……♡)

(それ……なら……♡)

(だめ……だめだよ……  
この人は騎士さんじゃなく(っ♡)

(でも……こんなに激しく  
わたしを愛して……くれるの……  
それ……なら……いい……♡)





さあまた射精すぞ  
今度はどこに欲しい？

ななかはだめっ  
だめですっ♡

ほう  
やはりだめか

あ……  
だだめじやなら……  
ですす♡♡♡

でも今は身体  
勘違いしちゃって  
ますからっ♡

大好きな人と  
子作りしてるんだっ♡

今なかに出されたら  
わたしの子宮  
絶対赤ちゃん  
作っちゃいますからあっ♡

ワシはお主を  
愛しておるぞお？



この人はわたしのムミ  
愛してくれちゃう……  
わたしはこの人のことを  
愛してる……♡

（あれ……  
なんでわたしこの人のこと  
受け入れちゃダメなんだっけ？）

（……おかしな感じが  
する……  
わからなすぎる……♡）

あ、あなたの♡  
す、好きに……♡

中身がムミ  
ムミ……♡

ああん♡  
ムミ……♡

わたしはあつ♡  
あなたのものだからあつ♡

ムミ……♡

ムミ……♡

ムミ……♡

ムミ……♡

ムミ……♡

ムミ……♡



ははは  
愛い奴だ

ならばこれからは  
ワシのことは  
ご主人様と呼ぶがらう

そうすればお主の  
望むところはワシの精を  
吐き出してやろう

はひっ♡  
ご主人様あつ♡

なかっ♡  
なかに出してくださいう♡

ご主人様のあつくて  
どろっとしたの♡  
なかにいっぱい欲しいんです♡

びゆるびゆるうっで  
奥にたくさん  
注ぎ込んでくださいう♡

ぬる

ぽん♡

お♡

あつ♡あつ♡  
わたしもお♡  
いくっ♡いくっ♡  
いくっ♡いくっ♡

あつ♡あつ♡









♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡

ハッ♡

ハッ♡

「あたしの一番奥が  
この人の…  
うんうんご主人様の精液で  
いっぱいになってえ♡」

「あたたかくって  
きもちよーい♡」

ハッ♡

「すっごく幸せえ……♡」

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡





卷

「まだ、して……  
もらえるんだ……♡」



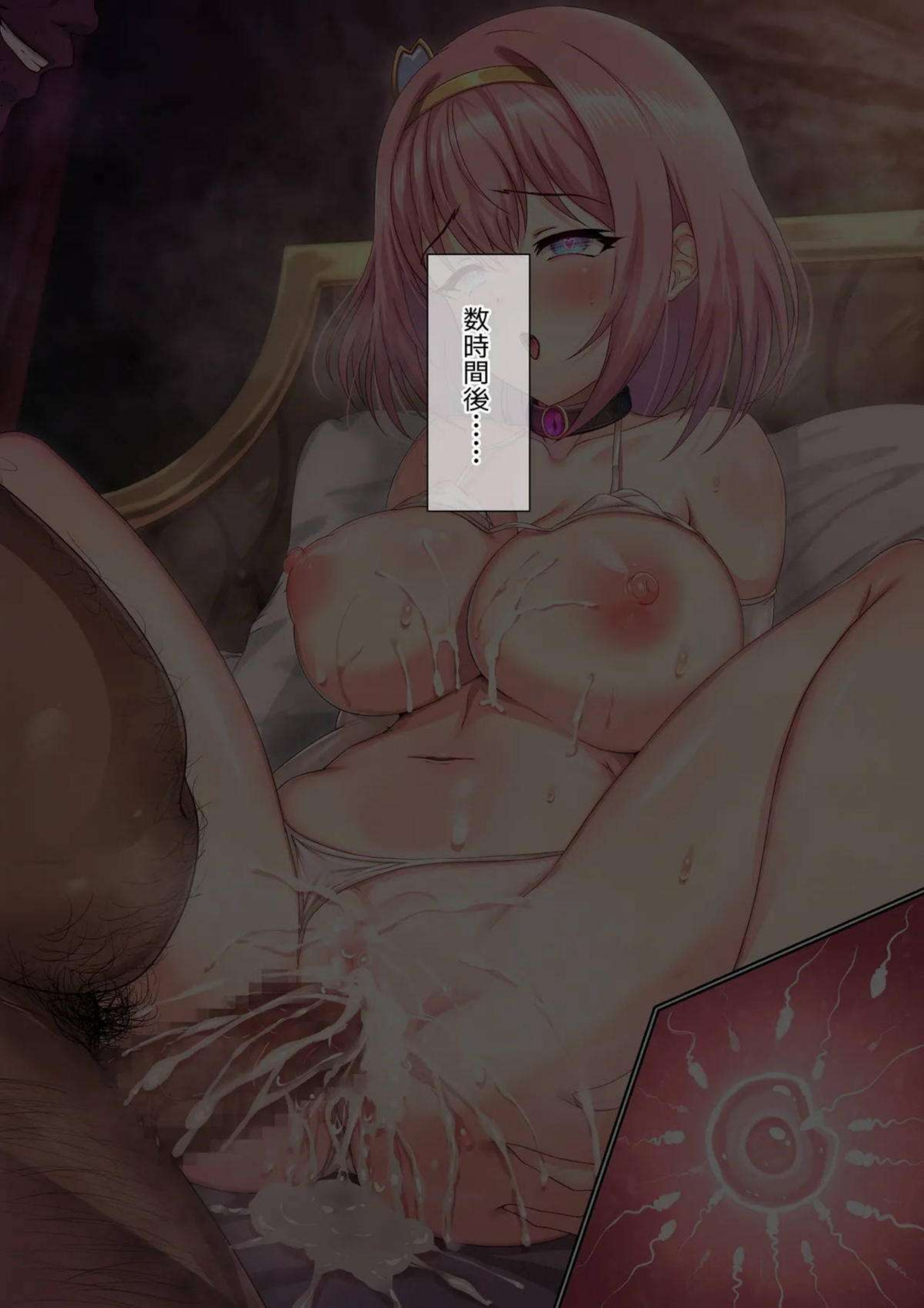
ALL







数時間後……





ガッ

んお……♡

おっ……♡

くく、無論  
性奴隷も  
兼ねてもらうかな

あ……はあ……♡  
つま……せいろれ……  
うれひいれす♡

こひゆじん……しやま……♡

（ほわほわして……  
みたされてて……  
とってもしあわせえ……♡）

（……でも  
なにか……たひせつなことを  
わすれてるような……）

ふふ  
もう夜明けか  
少々物足りぬが  
今日のところは  
ここまでとしておこうか

ズン  
実に良い具合だった  
気に入ったぞ

ただの孕み袋で  
終わらすのは  
もったいない

お主をワシの  
妻の一人として  
迎え入れよう

ドゥ……

（……いつか……だって  
こんなにかもちいんだもの♡）

ドゥ……

ズン

くく……♡  
くく……♡  
くく……♡

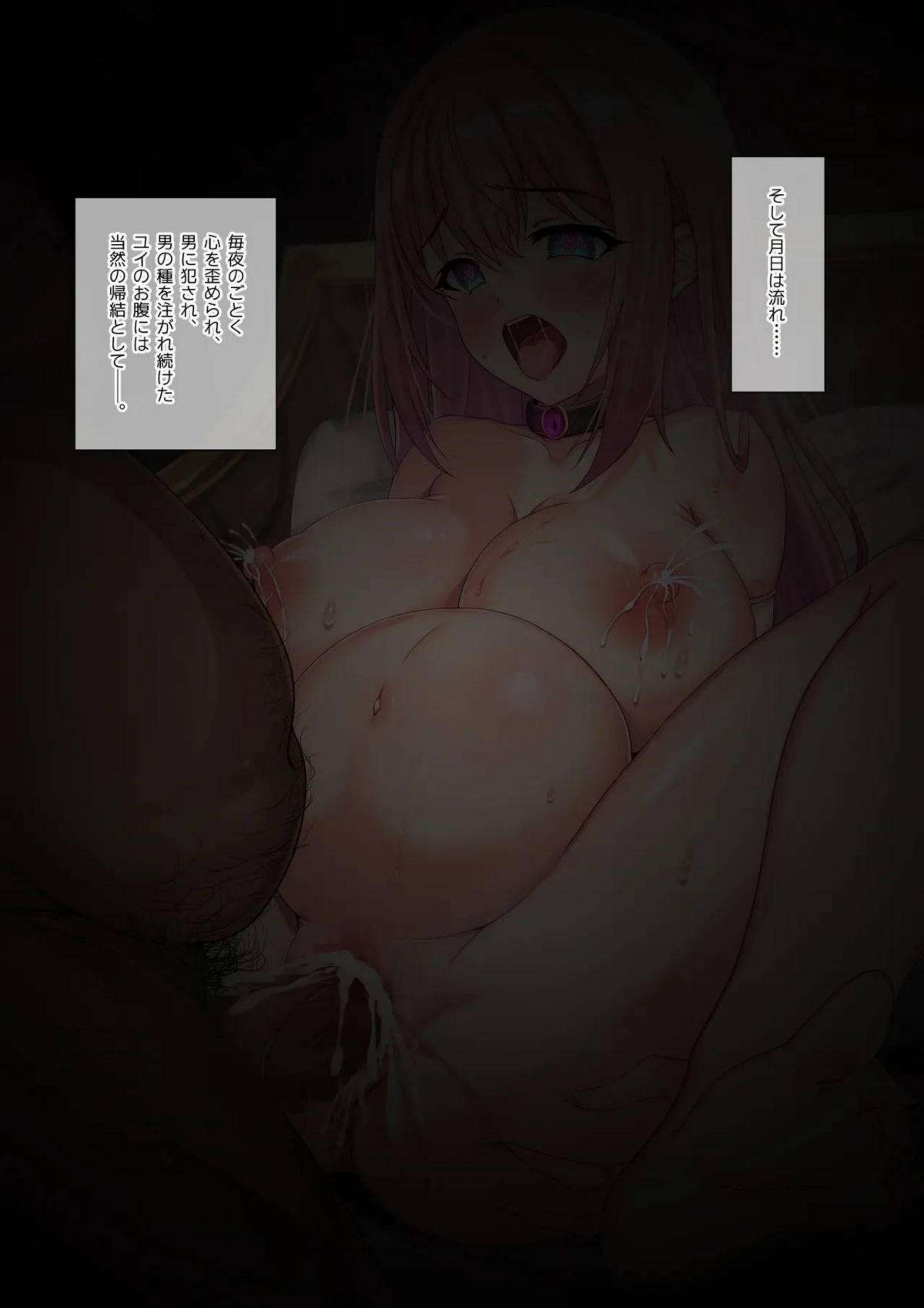






そして月日は流れ……

毎夜のごとく  
心を歪められ、  
男に犯され、  
男の種を注がれ続けた  
ユイのお腹には  
当然の帰結として――。













聞いたぞ  
腹の中にあるのは  
双子だそうだな

はい  
お医者様もとても  
元気に育つてるとも

ふアレと合わせて  
もう三人か

まったく  
孕みやすい腹だな

ああん……♡  
申し訳ありません  
ご主人様♡

ですがわたしの子宮が  
ご主人様のこと好き過ぎて  
どうしてもご主人様の  
赤ちゃん作ってしまうんです♡





もう  
あの小僧のことは  
良いのか？

ズン

あやつは未だにお主を救おうと  
暗い穴倉の中で必死に小石を  
掻き出しておるらしいぞ

騎士さん……  
ですか……





もうあの人のことを  
考えても何の感情も  
湧かなくなつて  
しまいました……

わたしを  
満たしてくれるのは  
ご主人様だけ……

ご主人様に愛していただき  
ご主人様の種で孕み、  
ご主人様のお子を  
産み続けること……

それだけが  
わたしのすべて♡  
わたしの幸せ♡

他の男のことなんて  
知りません♡





ほう  
ではその小僧を最も環境の過酷な  
最下層に送っても構わぬな？

……ご主人様のご随意に

酷い女はお嫌いですか？

~~~~~酷い女だ

いや、我が妻に相應しい

つまらん話をしたな

さあまだ夜は長い
昔の男のことなど忘れ
我らはたっぷりと
愛を交わそうではないか
なあ、ユイ？

はい、ご主人様♡
ユイにご主人様の
ご寵愛をくださいませ♡

そして願わくば
これからご主人様の
お子を孕み続けることを
お許しくださいませ……♡



もうそこにはかつての
清純で心優しい乙女の姿はない。

仲間、思い出、大切な人……
すべてを忘れて
愛しいオスの与えてくれる
幸福な快楽に溺れる
一匹のメスが
いるだけであつた……。

never-ending





あの日……
僕とユイが人攫いに
攫われてから
どれだけの年月が
経っただろうか。

それどころか
いつからか労働環境は
さらに悪化した。

食事も睡眠も最低限。
砂塵、落石、ガス……
毎日の作業が命の危険と
隣り合わせ……。

毎日毎日薄暗い坑道で
穴を掘っては土を運ぶ日々。
ユイを助けに行こうにも
見張りは厳重で逃げ出すことも
叶わなかった。

いつかユイを救い出す。
その誓いだけを心の支えに
今日も僕は穴を掘り続けていた。

そんなある日、
作業場に騎士甲冑姿の
男たちが現れた。

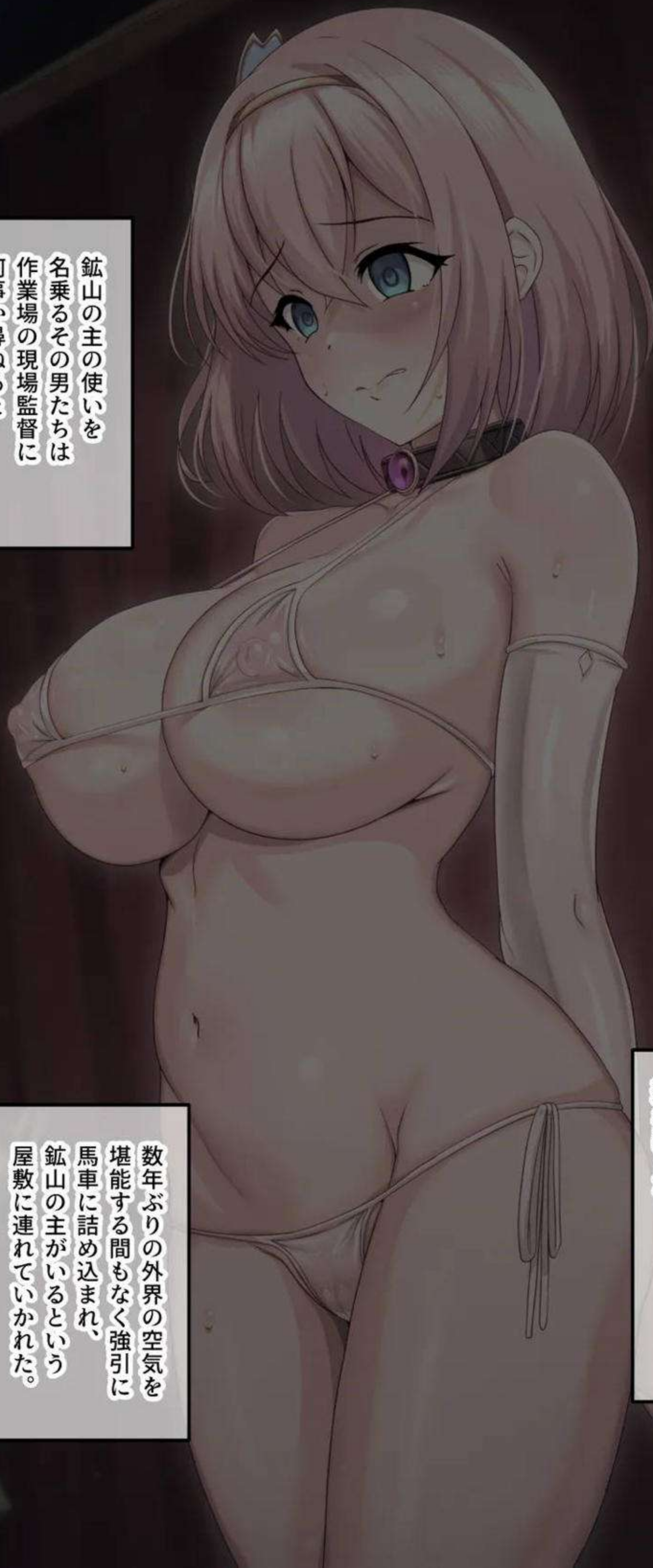
鉾山の主の使いを
名乗るその男たちは
作業場の現場監督に
何事か尋ねると
自分の方に近づいてくる。

彼ら曰く、この鉾山の主が
お前に話がある、と。

何が起きているのか分からず
困惑している僕を尻目に
男たちは僕を鉾山から
連れ出した。

数年ぶりの外界の空気を
堪能する間もなく強引に
馬車に詰め込まれ、
鉾山の主がいるという
屋敷に連れていかれた。

そこには――





騎士、クン...

ユ...ユイっ!!





そこにいたのは
あの日離れ離れになった
少女——ユイだった。

髪は伸び、年月が経過したことで
容姿は大人びていたが
自分が彼女を見間違えるはずがない。

……だが再会を素直に
喜べる状況ではなかった。

彼女が身に着けているのは
局部を最低限隠すだけの
ビキニのような布地だけ。

そしてその豊かな胸は
隣に立つ富豪風の男に
我が物顔で揉まれ
柔らかく形を歪ませていた。

……その姿を見れば彼女が
この数年間どんな辱めを
受けてきたのか
想像するに難くない。

思わずカッとなって
身を乗り出そうとする僕を
両脇に立つ男たちが抑えつけた。

ユイを…離せ…っ!!

ユイはお前の
物じゃない!!

くくく、なぜだ？
ワシがワシの物を
好きにして何が悪い？

いやワシのものだよ
これを手に入れるために
いくら積んだと思っておる

お主が一生かけても
稼げぬ額だぞ？



ごめんね
騎士くん…っ

ユイ……

わたし…この首輪のせいで
この人に逆らえなくて……っ

それで……
わたし…わたしは…っ!!

くくく…
まったくこれほど
そぞろ身体をした女に
手を出しておらんとはな

お陰で初物をワシが
いただけたのだから
感謝せねばならんがな

もうこの女は身体の
隅々までワシの手垢付きだ

お前……!!



しかしな

この女ワシが
散々抱いてやったというに
いつまでも床の上で他の男の名を
呼び続けおつてな...

いい加減
煩わしくなつてな
手放すことにしたのよ

そこでだ

こやつが言うには
お主は人を強化する不思議な力を
持っているらしいではないか

しかし代わりの女は
いくらでもいるがこの首輪は
手元においておきたくつてな

方々外す手段を
探したが一向に見つからぬ

その力で首輪を
外すことができる
かもしれないとな

どうだ?
やってみぬか?



もしも首輪を外せれば
お主は解放してやろう。
この女も連れて帰るといい

……できなかったら？

首輪こそ外せんが
この身体だ
たっぷり稼いでくれるで
あろうなあ……？

くっ……

当然お主にはまた

鉱山に戻ってもらう

そしてこの女は……

くく、娼館にでも

払い下げるとするか

お願い……します……

ん？

お願いします……
わたしはどうなっても
いいですから……

どうか……騎士くんは……
騎士くんだけは……っ

ユイ……



大丈夫だよユイ

騎士くん…？

任せて
僕が必ず
ユイを助けてみせる

騎士…くん…



はあああああっ!!

ゼンッ

んっんっん!!

全身に力を籠め
強化の力を発動する。
衰弱した身体で無理に
力を使ったせいか
全身から悲鳴が上がる。

だがそんなことは
気にしてられない。

力を受けたユイが
身をよじるが一向に
首輪が外れる気配はない。

パッ





自分の力ではユイを
助けられないのか？

いや、ダメかもしれない
なんて考えるな。
今はユイを助けるために
ありったけの力を……!!

噛み砕きそうなほど
歯を強く食いしぱり
全身に力を籠める。

はっあああああつ!!

絶対に……っ
絶対にユイを
助けるんだ……!!

次の瞬間。

ふっと全身から
力が抜けるような
感覚がした。

同時に辺りを
照らしていた強化の光も
徐々に窄んでいく。

力を解除したわけではない。
今も自分は力を
発動しようとしている。

この数年で強化の力が
弱まったのか？
いやそんなはずは……

困惑する自分の頭上から
「ふふふ……」という
笑い声が聞こえ、
思わず顔を上げた。





フフ...アハハハ!!

ユ...イ...?

信じてたよ
騎士くん

騎士くんならきつと
私を助けるために
全力で力を使ってくれるって



その様子だと
上手くいった
みたいだな

はいご主人様♥

あーん

ユイ……？
何を……言って……

騎士クンの力は確かに
指輪に移し替えることが
できました♥

ぐにぐに

くくく
そうかそうか
よくやったぞおユイ



ごめんね騎士くん
今までの全え部
「お芝居」だったの

しば……
な、なんでそんな
そんなことを……

ご主人……様……？

だってご主人様が
あなたの力が欲しいって
おっしゃるんだもの

そ
この方は私の
大切なご主人様で
愛する旦那様なの♡

ぐにぐに



さあ
お受け取りください
ご主人様♥

これでこれからは
騎士クンの力も
ご主人様のモノです♥

あ、え……？

ズッ



ふむ。
この指輪に魔力を
籠めれば良いのだな？

はい♡

くく……
そういう訳だ
小僧

なにが……？

お主の女も力も
すべてワシの物に
なってしまった
という事だ

こんな風にな——

グッ

あ、ああ…すごい
ご主人様の力が
流れ込んできて…♡

とっても温かくて…
気持ちいい…♡

くくく
なるほど
確かに発動している
ようだな

パンプ

なっ!!

んあ♡



ふふ…♥
騎士クンすっごい
顔してるよ?

当たり前だよ
これは騎士クンと一緒に
たくさん絆を紡いできた
大切な力だもんね♥

それが他の人のモノに
なっちゃったんだから♥

じゃあついでに
もっといいモノ
見せてあげるね…♥

ふふ…♥
チェンジ…
プリンセスフォーム…♥



瞬間。
視界を覆った闇が
晴れるとそこには
闇色の装束をまとった
女がいた。

……そこにいる女が
自分の大切な人だと
いうことは分かっていた。

それでもどうしても。
自分を騙し陶然と嗤う女と
記憶の中の少女の優しい微笑みを
繋げることができなくて……。
ただ呆然と、少女の名を呟いた。

気分はどうだ
ユイよ？

あはっ♡
最高の気分です
ご主人様♡

体中がご主人様の
力が駆け巡って！

全身がご主人様の愛で
包まれているみたいです♡





あら？
ご主人様
あの子がお腹を
空かせているみたいです

ふん！！
おお！！

くくそれはいかな
早く連れてきてやるといふ

ふふ♡
かしこまりました
ご主人様♡



よしよしいい子ね
たくさんお飲み

部屋から出たユイは
すぐに戻ってきた。
その胸に赤子を抱いて。

そして恥ずかしげもなく
自らの胸を晒すと
そこに赤子の口を寄せ
吸わせ始めた。

ちゅうちゅうと
乳房を吸う赤子を
愛おしそうに見つめる
その姿は紛れもなく……。

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

！
その子……は……

とつても
可愛いでしょう？
この間産まれた
ばかりなのよ？

ご主人様と……
私の赤ちゃん♡



くくく
こやつこのの身体は
最高たかであいゃあ……

もう四人もワシの子を
産ませてやったというに
まるで飽きる気がせん

まさに魔性の女よの

あら？
さつきは娼館しょうかんに売るとか
おつしやつてませんでしたか？

まったく
それは芝居だと
言つたではないか

ふふ……
安心しました♡
それなら……

今から五人目……
孕なませてくれますか？
ご主人様♡



は、ああ…♡

ご主人様のおチンポ
すっかり大きくなつて…
んう、硬くて…
とっても熱うい♡

はぁ♡

はぁ♡

くっく
いつにも増して
昂つておるではないか

あの小僧に
見せつけてやったのが
そんなによかつたか？

それもありますけどお♡
なんだかこの姿になつてから
我慢が効かなくなつてしまつて♡

ヌク…♡

ヌク…♡

きつと
プリンセスフォームの反動！
ふふ、ご主人様の場合は
食欲より性欲という形で
現れるみたいですね♡

衝動が抑えられないくらい
ご主人様の欲しくて欲しくて…
堪らなくなっちゃってます♡

なれば仕方あるまいな
ワシのモノを使って存分に
飢えを満たすがいい

ああ…♡
ありがとうございます
ご主人様♡



それでは
ご主人様の
おチンポ♡

いただきます♡



はぁあぁん...♡
ご主人様のおチンポお...♡
私のオマシコにずっぷり
入ってるぅ...♡
はぁ...あぁん♡

はぁ...♡

挿入ただけで
気をやりおつて

お主ほど淫らな女は
大陸広しと言えど
そうおるまいな

お♡

あぁん、そんなに
褒められると
嬉しくなっちゃいます♡
言葉だけでイってしまいそう...♡

いくらイつても構わんが
ワシのモノに
奉仕するのも忘れるなよ?

ぬち...♡

ぬち...♡

うふ、もちろんです
ご主人様♡
それでは...

はぁん♡

ん♡



んあつ♡
あつあつあつ♡

ご主人様のチンポ♡

お♡

♡

ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡

気持ちいい所に
ずっと当たって♡
ああ、気持ちいい♡

ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡

お♡
お♡
お♡

お♡
お♡
お♡

奥までズンズンってえ♡
あつあつ私の奥子宮で
おチンポ感じます♡

ご主人様の
オチンポ♡
気持ちいです♡

グッ♡
グッ♡
グッ♡

グッ♡
グッ♡
グッ♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

そんなに淫らに
叫んでいいのか？

ほれ、騎士くんは
まだあそこでお主の痴態を
見ておるぞ？

あやつはお主が身を投げ打って
助けるほどに
大切な存在ではなかったのか？
ん？

んっ、ああっ♡
もう、またそんなこと
おっしやつてっ♡

今の私にとって大切なのは
あなただけですからあ♡

ご主人様に愛してもらって
ご主人様の子供を産むのが
私のすべてですからあっ♡

そうかそうか
ならば望み通りに
してやろう



んおっ!!

ご主人様のおチンポの
膣内で膨りやんでっ♡

おっ♡
ゼクィ

おっ♡

だっ♡
ススス♡

わたしの中に
ご主人様のザーメンの
奥まで出してる♡

ゼクィ

ぽっ♡

ぽっ♡

五人目の赤ちゃん♡
孕ませてくたしやい♡
おっ♡ おっ♡ イグ♡
イグ♡♡ イグ♡♡♡♡♡

これっ♡ 精液♡
ザーメン♡ りゅ♡
射精してくたしやい♡

ゼクィ

おっ♡
ススス♡
ススス♡
ゼクィ

……ユイ

僕はただ……
いつかキミと
また冒険に……

さあ行こう
騎士クン!!







んおっ
おっ♡

ごじゅ...じんしやま...♡
ごめい...♡お...♡

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ンンン

ふう、相変わらず
良い使い心地よ



はあ...はあ...♡
んぐっ...はあん...♡

お腹の中
ご主人様のザーメンで
いっぱいになって...♡
ん...はあ...♡

は...あ...♡

いつでも...
気持ちいいです
ご主人様あ...♡

くくそうか
それはよかったな

ワシだけでなく
あそこで呆けている
小僧にも二言ぐれで
やったらどうだ？

はい

はい

はい

はい

ああ……
まだいたんですね

もう用は済みました
戻ってもらって結構ですよ

ユイ……
僕は……僕は……

あなたたち
その男を連れて
行きなさい

はっ
かしこまりました
奥様!!

おい暴れるな
大人しくしろ

くく、この力の礼だ
戻す先は最下層ではなく
安全な場所にしてやる

扱いも奴隷ではなく
従業員待遇としてやろう
どうだ、嬉しいかろう?

ああんご主人様
お優しい♡

よかったですね
これからは私のことは
忘れて精々ご主人様のために
尽くしなさい

私も……あなたのことは
もう忘れますから……
さようなら、ユウキくん

ユイっ!!
ユイーーーーっ!!

まったく最後まで
うるさい男でしたね…

さあご主人様
邪魔者は
いなくなりました♡

はぁ♡

はぁ♡

あとは夫婦水入らず…
二人つきりでたっぷり
楽しみましょう♡

ん♡♡

くく…
今日は他の女どもも
おらんからな

今日はお主が
イキ狂うまで
相手してやるとしよう

ぬち♡

ぬち♡

♡
とっても楽しみです
ご主人様あ♡♡

おは♡





あつ、あつ、あつ♡
イクっ♡ またイきます♡
ご主人様あつ♡

一時間後……
絶頂8回目



~~~~~♡~~~~~  
~~~~~♡~~~~~  
~~~~~♡~~~~~  
~~~~~♡~~~~~


二時間後……

んぎいの♡
ごしゅのじんさまあつ♡

もむりの♡
これ以上はあつ♡
イかせてつくだしやつ♡
はっがっ……ああつ♡

んぎいの♡
ごしゅのじんさまあつ♡

まったく戯れに
イクなと命じてみれば
十分と持たぬとはな

こういう趣向も
悪くないな
また今度試してみるか

ごしゅの……
ご主人しやまあつ♡

……あとりあえず
充分楽しんだでな
イっでよいぞ

あり、がとうござるまじゅの♡
んおっ、イクの♡
イクううううの♡♡♡♡



絶頂21回目



おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡

おっ...まんこ...♡
ちんぽお...♡

これでひいふうみ...
六度は中に
くれてやったか

おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡

何を惚けておる
とつと奉仕を続けぬか

んおっ♡
わかりまひた♡
ごしゅじんしゃまあ...♡

おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡

おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡

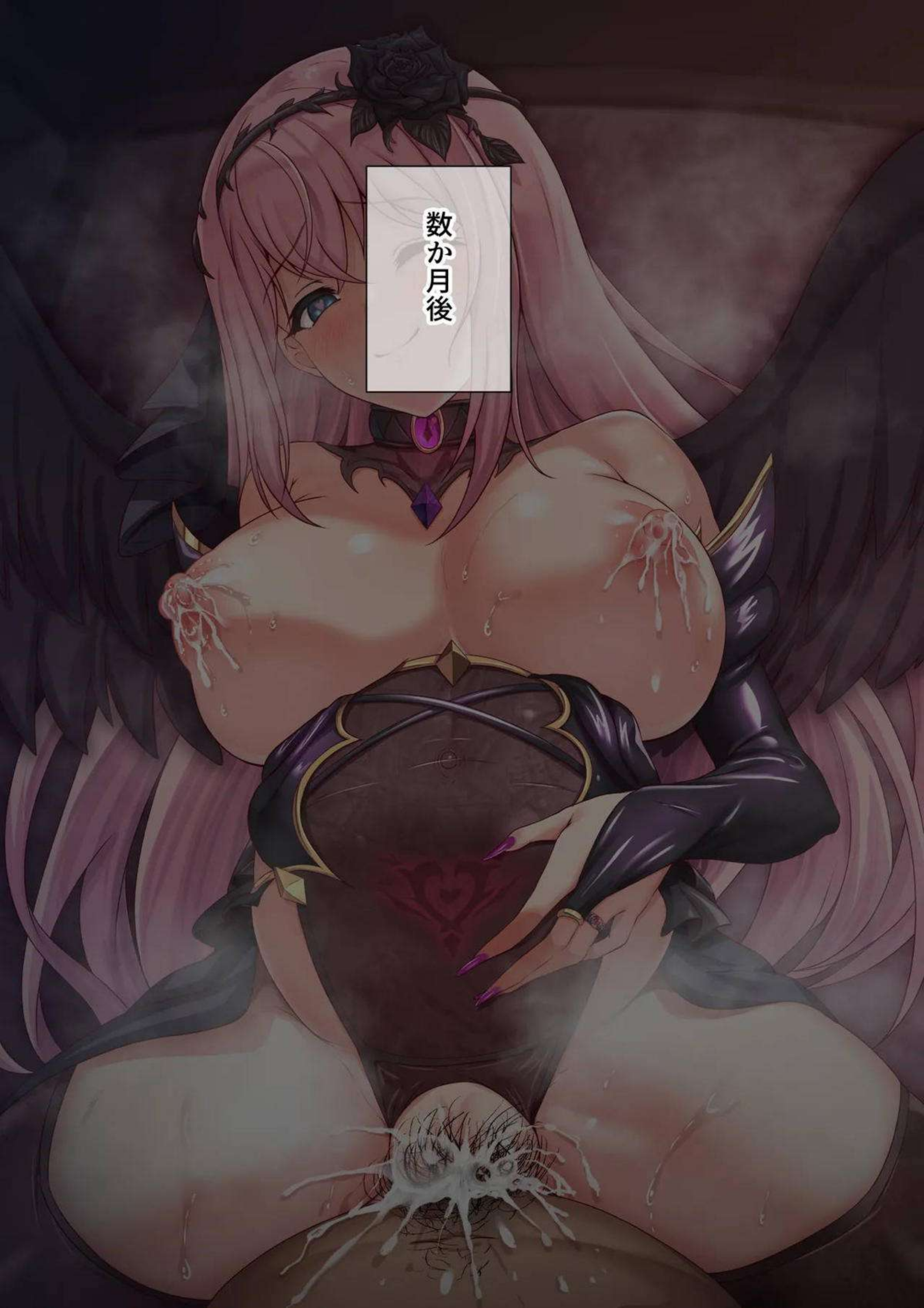
これだけ注いでやれば
もう孕んでいるであろうが...
ワシはまだ満足しておらんてな

おっ...♡
おっ...♡
おっ...♡





数か月後



孕むものにも
慣れたものだな

まったく
何人産むつもりだ
この淫乱女め

ご主人様が
お望みとあれば
いくらでも♡

ご主人様専用の
 孕み妻として
 当然のことかと♡



ご主人様……
私とつても幸せです♡

あの日競売場で
私を見初めて
くれたこと……

私のために大金を
積んでくださったこと

私を妻にすると
おっしゃって
くださったこと♡

ご主人様のすべてに
感謝しています♡

これからもご主人様の
望むままに私のすべてを
お使いくださいませ♡

愛しています
ご主人様……♡
心の底から……♡

Endless love story……♡

















































































































































